

E—34 女子学生の基礎体温に関する研究 (第7報)

山形大教育 長岡 佑

1. 前回までは女子学生 100 名の、松本・大倉氏による BBT 型分類と、飯塚・吉田氏による分類とを比較検討し、前者による BBT 型別、ABO 式血液型別にそれぞれ周期日数、回数、持続日数、随伴症状、月経周期日数の変動、BBT 型の反復性、黄体機能不全周期について報告したが、今回は 100 名のうち 40 名について結婚後の妊孕性を検討した。

2. 前回同様、ほか質問紙法による。

3. (1) 妊孕状態をみると、結婚より妊娠までの年月は 1 カ月以内 40%，3 カ月以内 65%，5 カ月以内 80%，1 年以内 92.5%，2 年以内 97.5%，2 年以上不妊 2.5% である。(2) 妊孕性良群を結婚後 90 日以内に妊娠し満期産のもの(A)とし、妊孕性不良群を 91～730 日以内に妊娠し満期産のもの(B)、妊娠はしたが早、流産をしたもの(C)、731 日以上不妊のもの(D)とし、A 群と BCD 群との妊孕性の良否を(イ)既往症、(ロ)結婚年齢、(ハ)体型、(ニ)ABO 式血液型、(ホ)初潮年齢、(ヘ)月経周期日数、(ヘ)月経持続日数、(チ)BBT 型などの各条件との関係において検討すると、(イ)～(ホ)は両群の間に差があるとはいえないが、(ヘ)の A 群は頻発周期が極めて少なく正常周期はかなり多いが、BCD 群はこれと反対である。月経周期日数平均は差がないが A 群はちらばりが小さく、(ヘ)の月経持続日数平均もこれと同様の傾向である。(チ)の BBT 型の頻度は A 群は概して二相性が多く一相性が少ないが、BCD 群は反対である。最頻型は両群とも二相性であり差があるとはいえない。